



# すぎもと通信

2014.9.10

## ＜顎咬合学会にて義歯治療症例を発表して参りました＞

2014.6月某日

「咬み合わせ」をメインとした 開業医が発表できる  
最も大きな組織である「顎咬合学会」にて  
当院の院長が症例を発表してまいりました。

(右写真：会場となった東京国際フォーラム)



テーマは「適切に調整された総義歯が摂食嚥下指導への有効性を示した一例」  
その内容を簡単にご紹介します。

当院の「シンラシステム」で製作した上下総義歯をお使いの患者さんが  
昨年秋ごろから全身状態が悪くなり兵庫医大篠山医療センターに入院されました。  
口から食事をとることが困難になり同病院施設の老健の担当医師である院長に往診依頼があり  
ST（言語聴覚士）から義歯の調整を求められました。  
しかしこの義歯の高さ、形態などには細部にわたり意味があることを説明し  
STの協力のもと義歯を調整することなく  
「食べる・飲み込むトレーニング」に対する適切な治療計画を  
さらにスムーズに立てることができました。

最終的には本人・家族・病院関係者が満足できるところまで機能が回復し  
現在は自宅で生活をおくられています。

歯の残っている人のほうが義歯（上下総義歯）の人よりも  
摂食嚥下訓練が有意なのは当然ですが  
上下総義歯でも同じくらいのレベルで訓練できる義歯を作りたい  
という思いがありました。  
そんな時にシンラシステムに出会ったのです。

今回のように全身状態の悪化により摂食嚥下機能が低下しても  
スムーズに訓練ができる義歯を  
患者さんが健康な時から使っていただくことが  
大きな目標のだったのが今回このような状態で  
実現したことは大きな意義をもちます。

現在も月数回、研修・指導のため東京に足を運び  
より高度な技術と精密な義歯作成のため日々研鑽をつんでおります。  
義歯へのご不満、審美的また「よく噛めない」などでお悩みの方は、どうぞお気軽にご相談ください。

